

学校だより 第206号(4-11)

け や き

櫻



令和5年3月7日

横浜市立永田中学校  
横浜市南区永田みなみ台7-1  
TEL045-715-5511

## 「雪に耐えて梅花麗し」

校長 永山 泰士

3月は「弥生(やよい)」と言われ、この「弥生」は「草木弥生月(くさきやおいつき)」からきています。3月になると多くの草や木が「いちだんと生い茂る月」という意味があります。春はもうそこまでやってきました。本校では3月8日(水)に第47回卒業証書授与式が行われます。219名の卒業生が永田中学校を巣立っていきます。永田中学校卒業生としての誇りを持ち、それぞれ新たな環境で活躍してほしいと願っています。3月24日(金)は1、2年生の令和4年度修了式が行われます。一人ひとりの生徒が「有終の美」を飾り、進級していくことを期待しています。

ある日のこと、地域の方から本校にお電話をいただきました。それは、重い買い物袋を持って長い階段を上っている地域の方に、永田中の生徒が「お手伝いしましょうか」と声をかけたとのこと。このことを知ったご家族の方が、永田中の生徒には心根の優しい生徒がいることをぜひ校長に伝えたいと言って連絡をくださいました。私はこの生徒の「親切で思いやりのある行為」に深く感激をしました。と同時に、そのご家族の方が学校にご連絡くださったことにも感激をしました。人の温かさが感じられて、とてもうれしい気持ちになりました。幸せを感じた瞬間でした。

さて、表題の「雪に耐えて梅花麗し(ゆきにたえてばいかうるわし)」ですが、梅の花は冬の冷たい雪や厳しい寒さを耐え忍んで乗り越えるからこそ、初春に素晴らしく美しい花を咲かせて、そのかぐわしい香りを発するという意味だそうです。「苦難や試練を耐えて乗り越えれば、大きく見事な成長が待っているということで、大成するには忍耐が不可欠である」というたとえです。

数年前、私は梅まつりの案内に誘われて、水戸の偕楽園に行きました。夜には宿で梅酒を胃袋に浸み込ませました。母を連れての旅でした。私は小学生4年生の時に母のもとを去って以来、一緒に暮らしたことはありませんでしたが、自分が家庭をもった40年ほど前から、毎年、母を旅に連れていくことにしています。わが人生、振り返れば、色々なことがありました。苦難や試練に耐えきれなかった自分がいました。母のもとを去ったのは正に逃げたのです。時を経て、多くの方々の温かな支援を糧に成長させていただき、教職の道に進むことになりました。親子関係というのは本当に難しいものと今でも実感しています。これをお読みの方々誰もが語り尽くせぬストーリーを今必死になって生き抜いていらっしゃるのではないのでしょうか。数日前の新聞の「悩みのつぼ」というコーナーで、回答者の社会学者・上野千鶴子氏が母娘関係で悩む相談者に「人生の節目ふしめに親子関係の再調整が必要で、そのためには子どもだけでなく親の方も成長しなければならないことを忘れないでくださいね。やがて大人になった娘と出会い直しができる時を期待して。」と述べていました。

「時薬(ときぐすり)」という言葉がありますが、この「時薬」は私にとってよく効いてくれたようです。母との関係も長い年月をかけて雪が解けるようになりました。今では次の旅は私も母も「どこに行こうか」と楽しみにしています。若かりし頃、「忍耐」が足りなかった自分ですが、少しは成長できたのかなと思うこの頃です。大切なことは「信じること」。「人を信じること」。そして「自分を信じること」だと思います。

保護者の皆様、地域の皆様、令和4年度も永田中学校の生徒の健全育成にお力添えをいただき、誠にありがとうございました。来年度も引き続き皆様のご理解ご協力ご支援を賜りたく、よろしく願い申し上げます。